

平成29年度「学校アンケート」集計結果と分析について

1 はじめに

12月に実施しました「学校アンケート」（生徒用「学習と生活アンケート」、保護者用「学校評価アンケート」）の結果をまとめましたので報告いたします。ご協力ありがとうございました。

集計の結果は、裏面の表をご覧ください。それぞれの項目ごとに、左から、「Aあてはまる」「Bどちらかと言えばあてはまる」「Cあまりあてはまらない」「Dあてはまらない」の順になっています。また、表の右欄には、肯定的回答（ここでは、「Aあてはまる」と「Bどちらかと言えばあてはまる」）の合計及び割合(%)を表示し、肯定的回答率の高い項目から並べています。

全般的に高い評価をいただいておりますが、結果を分析するに当たり肯定的回答の割合が70%以上であれば「おおむね良好」、50%以下なら「評価が低い」と見なして課題を整理し、今後も数値にかかわらず改善に向けての取組を進めていきたいと思っております。

2 アンケート結果より

- (1) 「学校に行くことが楽しい」について、生徒は79%・保護者は89%の方から肯定的な回答をいただきましたが、約2割の生徒が、学校に行くことがあまり楽しくないと思っていることについては、教育相談活動の中で生徒理解を進め、対応していかなければならないと考えています。ただ、子どもたちは「学校行事に意欲的に参加している」、「生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組んでいる」が共に90%であり、学校生活での取組に関しては充実感を持っているので、今後も一人ひとりの子どもたちの活躍の場を大切にしていきます。
- (2) 「悩みや相談事など、聞いてくれる先生がいる」と回答している生徒は、昨年度の47%から今年度は74%へと増えたのは、生徒と地道な関わりを持ってきた成果だと思われませんが、「学校は、子どもの悩みや相談事などに適切に関わってくれている」と回答している保護者の方は昨年度の74%から今年度は68%と減少しました。「先生と話そうタイム」等の相談活動の充実や、スクールカウンセラーの協力も得ながら、子どもの心に寄り添うきめ細やかな教育をより一層推進していく必要があると捉えます。
- (3) 「目標を持って学校生活を送っている」について、73%の生徒と74%保護者の方から肯定的な回答をいただきました。84%の生徒が「学校では将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答していますが、68%の保護者の方は「学校は、子どもの進路に関する情報提供に努めている」とやや低い評価です。社会が大きく変化する今日、子どもたちが夢と目標を持って生きていけるよう、3年間を見通したキャリア教育や進路指導を進めていく必要があります。
- (4) 「わかりやすい授業」について、86%の生徒と72%の保護者が肯定的な評価をしています。「シラバス等を利用して、計画的に学習するように意識している」「シラバスや学ナビなど、子どもが意欲的・計画的に学習できるよう工夫をしている」については、生徒45%・保護者57%と、共に低い評価となっています。シラバスや学ナビを見やすいように改良すると共に、普段から復習や予習に活用し計画的に学習を進めるよう、教師から生徒へ発信していくことが必要と考えます。また、「授業中、進んで発表する」生徒は47%と低い評価なので、「より主体的な学び」の視点からの授業改善を行い、タブレット等情報機器も積極的に活用しながら「学びを発信・交流し合える生徒の育成」を目指していきます。

- (5) 「全校スピーチなど様々な発表の機会を通して、人前で話す力がついてきた」については、生徒66%・保護者75%とあまり高い評価ではありません。人前で発表する活動は、表現力やコミュニケーション力の向上に効果があると考えていますが、まだまだ意見を言ったり発表する機会は少ないので、小規模校の利点を生かしてさらに交流や発表の場面を増やすことが大切と考えます。
- (6) 「家庭学習をよくする」については、生徒65%・保護者62%と、他の項目と比べ低い評価となっています。3年生になると家庭学習の習慣は身に付いてくるようですが（1年61%、2年53%、3年88%）、計画的な宿題の設定や点検、インターネットを利用したeライブラリーの活用など、入学後の早い時期から学習習慣を確立させていくことが重要だと考えています。また、「本をよく読んでいる」「子どもは、家庭でもよく本を読んでいる」と答えた生徒は56%、保護者は37%と低い評価となっています。読書の習慣が身に付くよう、学校においては読書環境の整備や啓発活動等を行うと共に家庭におかれましても時間の使い方等についてご協力をお願いします。
- (7) 「だれに対してもよくあいさつをする」については、生徒79%・保護者83%が肯定的にとらえています。挨拶はコミュニケーションの基本であり、「本校の生徒はよく挨拶ができる」と地域では良い評価が聞かれます。よき伝統は受け継いでいくよう引き続き指導を行ってまいります。
- (8) 「国際理解教育・国際交流は、今後とも推進していくべきである」については、保護者の方からは89%の肯定的な回答を頂いています。ただ、生徒には積極的に取り組んでいるという意識があまり高くなく（60%）、生徒の意欲や関心をより高める手立てが必要と考えています。村ALT(外国語指導助手)の配置や、学校支援ボランティアの皆様による奈良教育大学留学生の招致をさらに活用させていただき、英語検定試験の実施やスピーチ大会への参加も継続していきます。
- (9) 「地域ボランティアによる学校支援活動」の推進については、94%の保護者の方から理解をいただいています。PTA組織と協働した学校諸行事を、学校支援組織とも協力して進めてきたことが高い評価につながっていると捉えています。ただ、「校内や地域のボランティア活動に進んで参加している」と答えた生徒は37%と低い評価となっています。子どもたちは部活動や習い事等であり時間の余裕がないという現状もありますが、地域からの支援を受けるだけでなく、中学校と地域が連携しながら、生徒自らが地域で活動できる機会を設けたり活動の場を紹介していく必要があると考えています。
- (10) 「地域の文化や伝統的な行事に参加協力している」と答えた生徒は69%、保護者は74%であり、あまり高い評価とはいえません。地域についての学習を深め、故郷への誇りを持てるようにするが、地域の伝統行事への参加や地域文化の継承に繋がっていくものと考え、授業の中でも工夫し取り組んでいきたいと考えています。

お寄せいただいたご意見を参考にして、課題を整理し、次年度に向けて教育の営みを進めていきたいと思っております。保護者の方からは「授業参観や懇談会の時期や回数は適当である」が87%、また、「各種広報（学年通信、PTA広報、ホームページ等）により、学校や子どもたちの活動の様子が伝えられている」が94%と、学校での子ども達の様子を知っていただくことについて、高い評価を頂いています。これまで同様、各種行事にご参加いただきご覧いただければ幸いです。